

音源の比較試聴(33) —モーツアルトのレクイエム—

1. 始めに

前報(32)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも延べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じ曲のアナログ盤と STAGE+からの配信を比較試聴します。

アナログ盤は下記を使用します。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルト レクイエム

CBS SONY 20AC 1937

ブルーノ・ワルター指揮ニューヨークフィル

WESTMINSTAR WST205

ヘルマン・シェルヘン指揮ウィーン国立歌劇場管弦楽団

ドイツグラモフォン 479 8517

カール・ベーム指揮ウィーンフィル

ドイツグラモフォン 138 767

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

harmonia mundi HMM 332292

フライブルグバロックオーケストラ

配信は STAGE+から上記と同一の曲を選択します。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルト レクイエム

アンドレアス・オッテンザマー指揮トーンキュンストラ管弦楽団

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase

STAGE+

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase

3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤はそれぞれのレーベルにあった、イコライザー特性を設定して聴いていきます。

アナログ盤の CBS SONY レーベルのワルター指揮ニューヨークフィル盤は、モノラル盤で、音は中央に凝縮し、合唱やオーケストラの分離はよくありませんが、ソリスト達の歌唱は張りがあります。

WESTMINSTAR レーベルのシェルヘン指揮ウィーン国立歌劇場管弦楽団盤は、収録年代は不明ですが、音質からして年代を遡るような感じで、オーケストラや合唱の解像度も今一つですが、ソリストの歌唱は力強く張りがあります。

ドイツグラモフォンレーベルのベーム指揮ウィーンフィル盤は、ウィーンフィルらしいソフトで優雅なレクイエムです。

ドイツグラモフォンレーベルのカラヤン指揮ベルリンフィル盤は、力強さと流麗な表情が共存するカラヤン流の美学が聴けます。

harmonia mundi レーベルのフライブルグバロックオーケストラ盤は、2017 年の発売で、解像度も定位もよく、爽やかな演奏であり、いかにも現代のレクイエムといった印象です。

STAGE+の配信は、STAGE+を楽しむ(338)で報告のとおり、解像度がよく、合唱は力強く、ソリスト達の歌唱は明晰で、オーケストラは爽やかに協和しており、現代の宗教曲の見本のような演奏でした。

4. まとめ

アナログ再生、STAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくなっており、アナログ盤は、それぞれの収録年代やレーベルの特色を印象付けており、STAGE+の配信は、最新の収録らしく解像度がよく、明晰で爽やかな表現が感じられます。

以上